



2008 平成20年 5

誌面に掲載した記事・写真等の無断複製・転載等はお断りします。お問い合わせ・ご意見は狛江市地域活性課へ

発行 ● 狛江市地域活性課 〒201-8585 狛江市和泉本町 1-1-5 ☎ 3430-1111 FAX3430-6870 Email=wacco@city.komae.lg.jp 編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press 〒201-0012 狛江市中和泉 3-2-16 プランツベルツ 201 ☎ 3430-6617 FAX3430-6743 Email=wacco@k-press.net

東京と神奈川北部 結び暮らしを支える 世田谷通り

狛江には多くの道が走り、農道や生活道路としてだけでなく、東京と神奈川県北部を結ぶ交通の要衝にあつたため、東京へ出荷する農産物や炭などの物資の輸送に加え、大山（神奈川県）へ参拝する信者、多摩川の上流へ帰るいかだ師



など、さまざまな人々にぎわった。周辺の地域との交流を担った幹線道路は時代によって変わった。都心と川崎市北部、町田市を結び、市内を東西に貫く世田谷通り（都道3号世田谷町田線）は、近代になって次第に重要性を増した。昭和初期の新道建設に続き、戦後に入ると多摩水道橋の開通、六郷用水の埋め立てによる再度の拡張工事によって幹線道路としての体裁を整えた。しかし、急速なモータリゼーションの波に追いつかず、一時は渋滞が日常化していたが、小田急線との立体交差化、多摩水道橋の拡張などによって解消された。



まだ交通量が少ない世田谷通り。直進すると喜多見方面。交差点には朝布方向へ曲がるバスが見える

自動車より大八車や牛車が主

曾我宗一さん(86歳・岩戸北)の話 祖父の代から世田谷通りに面した一の橋のわきで100年ほど前からよろず屋をやってきました。私が小さいころは砂利道で道幅も数メートルと狭かったです。道の南側に六郷用水が流れていて、昔の人は「ジダイポリ（次太夫堀）」と呼んでいました。沿道はほとんどが桑とクリ、野菜の畑で、その間に農家が点在していました。付近の子どもたちは一の橋に集まっ

て、狛江駅の北側にあった狛江小学校（現・一小）へ集団登校していました。交通事故ではなく、川に落ちたりして危ないというのが理由でした。昭和4、5年ごろに道が北側に広げられ、新一の橋が架けられました。私の家も北側に下がりました。簡単な舗装も行われたのですが、工



新一の橋 1971年ごろ 右側の車の列が世田谷通り。中央を流れるのは六郷用水

が珍しくて学校の友達と喜多見の方まで見に行きました。一の橋の周りにはこのころから店が建ち始め、10軒ぐらいいになりました。車はめったに通らなくて、大蔵病院の近くにあった軍の施設で使っていた小さなトラックが通る程度でした。朝暗いうちから、ちょうちんをつけて野菜や肥料を入れるお

けを積んだ大八車や牛車がたくさん通りました。昭和16年の12月8日、父と大八車にダイコンを積んで日黒の市場まで行きました。その帰りに太平洋戦争の開戦を知り、急いで帰ってきたことを覚えています。戦後になって自動車の通行が増え、昭和40年代の終わりごろに用水が埋め立てられて、いまの道幅になりました。



新一の橋交差点 2008年 左側が世田谷通り。右方向がいちょう通り

穴ぼこだらけのパチンコ道路

栗山祥夫さん(76歳・東和泉)の話 父の代から銀行町で造園業をしてきました。小学生になったころ、めったに通らないトラックがやってくると、排気ガスのおい

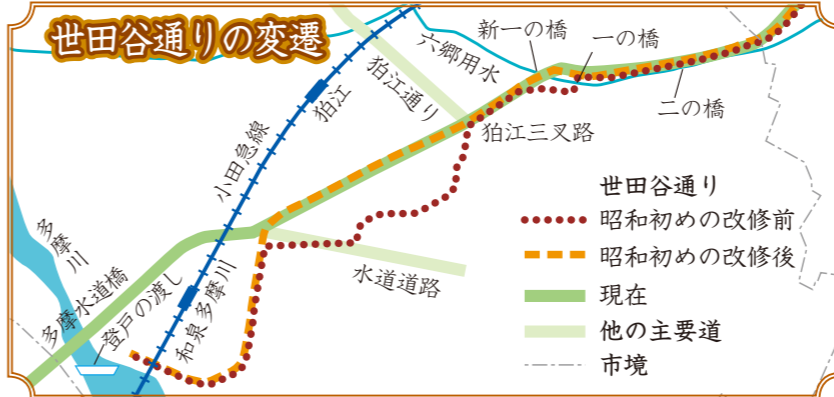


現・東和泉1、2丁目付近の世田谷通り。路面の黒く見えるのは補修の跡

ています。戦前は調布と三軒茶屋を結ぶ路線バスが銀行町を走っていました。戦争中、一時廃止されたのですが、昭和25年に国領（調布市）と世田谷の東宝撮影所間の路線ができ、バスが復活したのですが、当時の道路は穴だらけで「パチンコ道路」と呼ばれていました。この前後から街が復興し始め、お会式の万灯行列や祭りのみこしなどが道路を使って行われました。通るのはリヤカーと自転車がほとんどで、自動車はたまにトラックが来る程度だからできたんですね。28年に多摩水道橋ができて自動車の通行が少し増えましたが、本格的に増え始めるのは、39年の東京オリンピックのころか



狛江三叉路から和泉多摩川方向。銀行町の人たちが雪かきをしている



電車事故きっかけに新道建設

絹山達也さん(61歳・東和泉)の話 祖父の代の話ですが、狛江三叉路から水道道路との交差点に至る現在の世田谷通りができるまでは、私の家の南側を旧道が通っていました。昭和3年に家の北側に新道が造られて、その道から多摩川堤防へ向かう道が家の敷地を通ることになりました。敷地は二分されましたが、ほとん



水道道路方向へ走る旧・世田谷通り。信号右側の道は昭和初めまでの旧道

ど車が通らないため、渡るのにそれほど不自由しませんでした。戦後ですが、私も小さいころ道ばたでままごと遊びをやったことを覚えています。ただ、時折りダンプカーが走ってくるんですが、ものすごい土煙を上げてくるので、遠くからもすぐわかりました。母は洗濯ものが汚れて困るとこぼしていました。36年に小田急線の多摩川鉄橋でダンプカーと衝突した電車が河川敷に転落する大事故がありました。それまでは現在の和泉多摩川地区センター付近から多摩水道橋までの区間は堤防上を走っていたのですが、この事故をきっかけに、水道道路との交差点から水道橋とを結ぶ現在の世田谷通りのルートの着工が早まりました。この時に小田急



直進するのが現在の世田谷通り。左に曲がると旧道。右方向は狛江通り。



水道道路付近 1950年 和泉多摩川から水道道路方向。手前が「江戸屋」、奥が絹山さん。

をまたぐ陸橋が建設されましたが、平成7年の小田急線の高架化で撤去され、道路が線路の下を走るようになりました。

写真提供・取材協力＝栗山祥夫、大関路恵、清水豊、曾我宗一、絹山達也、谷田部尚三(故人)(順不同・敬称略) 資料＝『狛江の民俗Ⅳ』(狛江市)